

平成25年度 学校自己評価表（実施段階）

那珂川町立 福岡女子商業高等学校

学校運営計画（4月）				評価（総合）		
学校運営方針	[教育目標] 人格の完成を目指し、徳育・知育・体育の調和のとれた人間性豊かな生徒を育成する。 地域や社会に貢献しようとする「志」と「実践力」を持つ人間を育成する。			B		
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標				
<p>1 学校運営方針の下、職員のきめ細やかな指導により、生徒の多くは生き生きとした学校生活を送っているが、一部の生徒に学習意欲や規範意識の低下がみられる。今後、生徒に自律し・自立する力を付けていく必要がある。</p> <p>2 就職、進学等の進路実績は着実に伸び、成果を上げることができた。 就職は、就職率100%を維持し、進学も地元の難関大学に初めて合格するなど、実績を上げることができた。 今後、さらに実績を伸ばすため、確かなる学力の育成やキャリア教育の充実を図る。</p> <p>3 女子商マルシェやボランティア活動、小中学校への学習支援等を通して、地域との連携を深め、地域の学校としての使命感や存在価値を高めることができた。今後、さらに連携を深めていくとともに、愛校心や学校への帰属意識の育成を図る。</p> <p>4 積極的な広報活動を行うなど、本校への志願数を増やすための取り組みの成果が志願倍率に反映された。 今後体験入学や中学校訪問をさらに充実させ、本校の特色の周知に努める。 また、マルシェ等の教育活動を通して、本校の良さを広く広報する。</p>	(1) 確かな学力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 魅力ある授業、分かる授業を展開し、学力の向上を図る。 ・ 学習規律や授業規律を確立し、基礎学力と専門的力量を充実させ、学習意欲の向上を図る。 ・ 家庭学習習慣を定着させる。 ・ 成績不振による進路変更を防止する。 ・ 				
	(2) 基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間を守る、あいさつの励行、清掃・整理整頓の徹底など、規律ある生活態度を身に付けさせる。 ・ 遅刻や早退、欠席者数を減らす。 				
	(3) 豊かな人格の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部活動の活性化や学校行事、生徒会活動の充実を図り、豊かな心を育み、規範意識を高める。 ・ 生徒に自律し、自立する力を育成する。 ・ 部活動加入を推進する。[加入率70%を目指す。] ・ 				
	(4) キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 三年間の全教育活動を通して、適正な勤労観、職業観を育成するとともに、進路意識の高揚を図る。また、連結教育（継続学習）としての進学指導を充実する。 ・ [就職率100%を維持する。] 				
	(5) 本校関係団体や地域との連携協力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・ PTA、同窓会、後援会等との連携や地域との交流を通して、本校への理解を深めるとともに、地域の活性化に貢献する。 				
	(6) 人権・同和教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全教育活動における人権・同和教育の推進を図り、諸研究会へ積極的に参加する。 				
	(7) 職員研修の充実と教育力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員研修を計画的に推進し、教職員としての資質向上を図る。 				
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）		次年度の主な課題	
総務部	校務分掌間や職員間をつなぐ機能を果たし、スムーズな校務運営を実現する。	職員が見通しを立てながら業務に取り組めるように、行事計画を早めにまとめ、職員会議や職員朝礼にて連絡する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校案内や入学のしおりは、次年度も校務運営委員と連携を密にとって作成する。また、学校案内と学校要覧を前年度内に作成に取り掛かるようにする。 ・ Webページの更新は、他の校務分掌にも担当者の配置をお願いし、スムーズな更新ができるように工夫する。 ・ 広報誌を定期的に発行できるよう、Webページの更新と連動させるなどの工夫を行う。また、用紙（A4横）の中の文面や写真などの枠組みをあらかじめ決めておく。 ・ 互助会レクレーションは、時期や他の行事との連動等を考慮して参加しやすい工夫を行う。 	
		職員へ配布された資料を、必要な時に閲覧できるようにファイリングする。	A			
		情報管理係と連携しながら、ICT機器を活用した情報共有環境を整備する。	B			
	関係諸団体との連携を強化しながら、関係諸団体と本校の活性化を図る。	PTAの各委員会活動を支援し、保護者の本校教育活動への理解を深め、行事や活動への参加を促しながら、連携して生徒を育てるムードを高める。	A	A		
		翠香会（同窓会）に対して本校教育活動の成果を報告し、卒業生にも紹介いただきながら、在校生を多方面から支援いただく。	A			
		女子商会（後援会）より支援いただいている事項を整理し、今後必要な支援策について検討・協議する。	B			
効果的な広報活動を行う。	情報が新しいうちに発信できるようにWebページの更新や広報誌「まなびいや」の発行を工夫する。	B	B			
	予め企画を練り、事前に掲載記事の提供を各校務分掌や職員に依頼する。	B				
	中学生とその保護者に対する広報活動を教務部と連携して強化する。	B				
研修部	職員に必要な校内研修を企画し実行する。また職員の研修にもつながる教育実習の充実を図る。	校内研修に関するアンケートを実施・集約することで希望の研修を把握した上で、校内研修を企画し実施する。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 来年度の研修に向けてのアンケートを採ることで実施しやすくする。 ・ 他校の校内研修の参加を増やすようにする。 ・ 次年度の人権・同和教育推進計画を本年度中に検討してもらい、次年度の各部・学年の指針にしよう。 ・ 研修会の参加を平均的にする基準が必要である。 ・ 研修誌の各先生方の個人研修を多く載せるように募集する。 	
		他校（那珂川町内の幼稚園・小・中学校も含む）の校内研修に関する情報の提供し参加を促す。	A			
		教育実習の充実を目的として、実習生には事前の指導・研修を行い、研修期間の充実を図る。	A			
	人権・同和教育を組織的・体系的に行い教職員としての資質向上を図る	各学級の「人権・同和教育授業の充実を図るため、担任が中心となって作成された内容を人権・同和教育推進委員会へ検討、改善を行い、より良い授業が出来るように支援する。	A	A		
		那珂川町の主催する那同研・学同研関連の行事、講演会・学習会に積極的に参加し資質の向上を図る。人権フェスタ・児童館こどもまつりには職員・生徒にボランティアの参加を呼びかける。	A			
		「あおぞら」などの視聴覚教材等の利用を促す。	B			
校外研修に積極的な参加を促す	県教育委員会・教育センター主催の研修への積極的な参加を促す。	B	B			
	研修誌「翠陵」に職員研修・各報告を掲載し記録として残す。	B				

平成25年度 学校自己評価表（実施段階）

那珂川町立 福岡女子商業高等学校

教務部	教科指導の充実をはかり、基礎学力を定着させる。	授業評価アンケートや授業参観週間等を活用して教員の教科指導力の向上をはかる。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 教科指導力向上のために、授業アンケートや授業参観等の機会を増やす。 調査前や検定前以外は家庭学習をしていない生徒がまだ多い。家庭学習の習慣をつけるために、教職員の共通理解を図る必要がある。 遅刻・欠席人数とも昨年より改善し、欠点者数も減少したが、欠点を多く持つ生徒もいる。支援を要する生徒や成績不振生徒へ粘り強い指導を行う必要がある。 生徒募集の広報活動を、各部やホームページの担当等と連携し工夫改善する。 中学校への出前授業等に積極的にかかわるための方策を、商業科と連携し検討する。 			
		各教科からの毎時間15分程度の宿題により、家庭学習の充実をはかる。	B						
		調査前1週間の放課後学習を学年と協力して実施する。	A						
	各部との連携をはかり、情報を共有化する。	学年主任会や研修会等で生徒情報を共有し、共通理解をはかる。	B	A					
		成績に関する説明会等において、成績不振者に対する指導を学年と協力して行う。	A						
		毎月の出欠状況や再試験後の成績に関するデータを各部に提供し、情報を共有する。	A						
	生徒募集に関する情報発信や広報活動の充実をはかる。	各部との連携をはかりながら、中学校その他の教育関係機関への広報活動を積極的におこない、本校の特色や情報を発信する。	B	B					
		中学校への出前授業や中学生の高校訪問等の機会を積極的に活用し、充実をはかる。	B						
		体験入学、保護者対象学校説明会の内容を充実させる。	A						
進路指導部	キャリア教育の推進	進路講演・ガイダンスを活用し、適切な進路決定の一助とする。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校ホームページを充実させ、情報発信を積極的に実施する。 校内・校外の進路ガイダンスを充実させ、進学授業料説明会などの実施も検討する。 外部模試を精査し、より有意な活用方法を模索する。 課外授業の内容を精査し、実態に即した進学・就職に役立つものとする。 就職活動の積極性を促す。自己研究、企業研究、筆記試験対策、面接試験対策など全力で取り組む姿勢を喚起する。 キャリア教育の推進として、いま何に情熱を傾けているかが大切であり、その観点から部活動加入の促進と充実を指導の基盤とする。 			
		進路相談・面接指導について、全職員の連携を図る。	B						
		進路だよりを定期発行し、進路意識の高揚を図る。	B						
	課外と模試の充実	外部模試や諸調査の結果をもとに面談を実施する。	B	B					
		資格取得と基礎学力の定着及び多彩な進学希望に応じた、課外授業を実施する。	A						
	就職・進学サポート体制の強化	学年部と連携し、生徒情報の共有を図る。	B	A					
		就職指導員および職業安定所と連携し、積極的な職場開拓を実施する。	A						
		三者面談（本人・保護者・担任）をサポートし、職業観・就労意識の向上と、有意な進学先選択の助言を行う。	B						
		3年生による進路体験発表を実施し、1・2年生の進路意識の高揚を図る。	A						
	生徒指導部	規範意識を高揚させ、規律ある生活態度を身につけさせる。	時間や生徒心得・風紀規程など、約束を守る意識の高揚を図る。	B			A	A	<ul style="list-style-type: none"> 集会時におけるの集団としての行動時間を守らせ、話を聞く態度の育成する。 自転車点検後の指導についての再検討。 登下校の指導について、職員一斉指導を実施するなど、指導を強化したい。 自転車通学生の通学方向別に指導を行い、具体的な指導を実践したい。 1年生への交通安全指導の強化。 指導全般において後手に回っていたので、先を見通した指導を実践したい。 学校行事における、リーダーシップを発揮できる生徒の育成。 部活動入部率の維持 新入生（現1・2年生）の入部率は、ここ2年間70%を超えているが、1月末段階では1・2年生合わせて65.5%である。 退部後の生徒への指導を、顧問と担任で連携するなどの実践。
			集会等において、集団としての必要な行動を身につけさせる。	A					
			意識向上のため、犯罪防止講習会・携帯電話教室を実施する。	A					
交通安全教育を行い、交通社会人としての意識を養う。		自転車通学免許制において、安全利用の学科・実技の講習会を行う。	A	B					
		ミニバイク安全利用講習会を適宜行う。	A						
		自転車点検・ミニバイク点検を定期的に行う。	B						
学校行事や部活動を通し、生徒の力を引き出す。		生徒会執行部を中心に活性化のためにあらゆる取り組みを行う。また、生徒会執行部を中枢に全生徒の生き生きとした活動を促す。	A	A					
		部活動加入を推進し、加入率70%以上を目指す。	A						
		愛校心を育み、共感できる場を多く引き出す。	B						
保健環境部		校内環境の整備と充実。	日常の清掃活動や整理整頓の徹底。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の心身の健康課題が多様化・深刻化する中で早期把握と情報の共有、適切な対応が求められている。これらの事を考えると情報把握の場が現在の担任だけでは不十分ではないだろうか。そこで考えられるのは学年会の定期的実施である。また、情報を主任会で集約した後の全体に伝達する場も必要であり全体会の実施も望まれる。現在本校にはない、県立高校の特別支援コーディネーターに相当する教職員の配置も必要ではないだろうか。保健環境部では福岡若者サポートステーションとの連携を模索していきたい。 通常の清掃活動における分別や収集に関しては未だ不十分である。今後も改善の余地があり取り組みが必要であると考えている。 		
	環境美化活動の活性化に努める。		B						
	清掃担当者・使用者によるゴミ縮減と分別。		A						
	健康で生きていく力の育成。	生徒の動向を早期に把握し職員間で共有する。	A	A					
		問題の早期発見によるスクールカウンセリングの実施と予防対策の共通理解を図る。	A						
		「敬愛」の精神を通して豊かな心を育み規範意識を高める。	B						
	組織活動の活性化と充実。	保健・清掃委員会による自主的な啓発活動。	B	B					
		生徒委員会と小中学校や地域との連携を図る。	B						
		高等学校保健会への積極的参加と他校との交流を図る。	B						

平成25年度 学校自己評価表（実施段階）

那珂川町立 福岡女子商業高等学校

第1学年部	生活指導の充実を図る。	高校生として品位ある生活態度の育成に努め、基本的生活習慣の確立を目指すため、家庭との連絡を密にする。	A	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 礼法活動の実践と明るい挨拶、機敏な行動、場をわきまえた対応を指導する。 ・ 同じ違反行為をする生徒の指導を徹底する。 ・ ボランティア活動に積極的に参加させ、地域との繋がりをつくる。 ・ 生徒・保護者・教員間の連携を大切にする。 ・ 基礎学力を徹底させるため、自宅学習を充実させ、毎日学習する習慣を身につけさせる。 ・ 検定試験への積極的参加を促し、合格率を上げる。 ・ 進路意識の高揚のため、個別指導や面接練習、情報収集など早めに取り組みせる。 ・ 進学希望者・看護希望者・公務員希望者等の基礎学力を身に付けさせる対策を早めに取り組み。 ・ 中心学年として、部活や学校行事に積極的に参加する態度の育成と、リーダーを中心とした生徒の自主的な活動を支援する。
		美化意識の高揚を図り、清掃活動を徹底させ、地域清掃活動等のボランティア活動を活性化させる。	A			
		挨拶の励行を促し、礼節を重んじる態度を培うとともに、正しい言葉遣いの徹底を図る。	B			
	学習指導の充実を図る。	日々の授業を重視し、家庭学習等自主的な学習の定着化を図る。	B	B		
		教科担任と連携し、主体的に課外授業・検定受験等に参加する学習態度を育てる。	B			
		読書の充実を図り、幅広い知識・教養を身につけさせる。	A			
	進路指導の充実を図る。	部活動・学校行事・学級活動等の活動を通して、リーダー性・協調性・実行力を養う	A	B		
		必要に応じて個人面談・三者面談等を実施し、生徒・保護者との意思疎通を図り、適切な進路指導を行なう。	B			
		進路指導部と連携し、様々な進路情報を通して、進路に対する意識の高揚を図る。	B			
第2学年部	女子商の中核となり、地域や社会に貢献できる生徒となる人材育成をする。	さまざまな行事・活動を通して進路実現に向けての動機づけを行う。常に目的意識を持たせて、成功体験や課題について日常生活への還元を図る。	B	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人ひとりの生徒が最上級生として、さまざまな行事で得た貴重な体験を自分自身の成長に活かすのみでなく、率先垂範して1・2年生を牽引できる人材育成を目指す。大人としての風紀や立ち振る舞いを意識し内側から輝ける指導をする。 ・ 昨年に引き続き、社会人の基本的ルールとしての自己管理・健康管理を身に着けさせる。朝課外を含め、安易に遅刻・欠席・早退をさせない指導を取り組む。 ・ 進路実現・社会人に向けての風紀指導を取り組む。少数ではあるが違反を繰り返す生徒に対して、望まれる高校生像を理解させたい。 ・ 生きる力としての学力を伸ばす。そのために授業を大切にす姿勢や課題・提出物・家庭学習の徹底を図る。 ・ 生徒個々の適性や個性をよく理解し、生徒の可能性や能力を大きく伸ばせる進路実現のための指導に取り組む。また、特別クラスについては高資格取得による進路実現を推進する。
		HR活動や各行事を通して帰属意識の育成を図り、「気配り・心配り・仲間達成する」精神を養う。	A			
		積極的に生徒会活動参加や部活動入部を勧め、人格形成・自己実現の一助とさせながら、リーダーの育成を図る。	A			
	規律ある学校生活の中で、規範意識を定着させる。	団体生活における時間の重要性を意識させて、自己管理・健康管理につなげる。	B	A		
		風紀・ルールを理解させて、違反に対してはきめ細やかな指導を行う。	A			
		集中力や場に応じた雰囲気作りを心掛け、行動にめりはりをつける。	A			
	学習環境を整え、学力および資格取得向上を目指す	教室の美化・整備を心掛け、落ち着いた雰囲気です学習できる環境を整える。	A	B		
		それぞれの学科・コースの専門性を活かした進路実現に向けて目標を設定させ、基礎基本から積み重ねを大切にした指導・高資格取得に取り組む。	B			
		生徒自身の学習課題や提出物の重要性を認識させ、家庭学習の充実を図る。	B			
第3学年部	生徒の進路実現を念頭に置いた細やかな指導を行う。	進路指導部との連携を密にし、進路に関する情報提供や各種講習会・セミナー等への積極的参加を促す。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進路実現に関しては、多くの方々のご協力のもとに例年と大差なく、就職・進学ともに結果を残すことができた。ただし、卒業後の進路先において必要な能力や資質を十分に身につけることができたかどうかは今後の調査から分析する必要があると思われる（早期離職者、早期退学者の数や、進学先での成績、就職先での勤務状態など）。生活習慣に関しては、3年間で今年度が最も出席状況が良かったことは評価できる。ただし、遅刻に関しては、特定の生徒にほぼ限定されており、この生徒への指導がもっと徹底出来ていれば、学年全体の意識はさらに向上していたのではないかと考えられる。学校行事に関しては、体育祭、女子商マルシェなどの行事を中心にリーダーシップを発揮できた生徒が見られた反面、一部の生徒への負担が大きく、役割や責任を分散できるように配慮すべきであったと考えられる。
		個々の進路実現に応じた学習指導、面接指導を断続的に実施する。	A			
		授業外学習（家庭学習、放課後の自学自習等）を促し、学力の向上と学習習慣の確立を目指す。	B			
	実社会に対応できる能力や心構えを培う。	家庭からの協力も得ながら、欠席・遅刻・早退を可能な限り減らす。	A	A		
		常に実社会を想定させ、身だしなみや言葉遣いを意識させる。	B			
		定期的に集会を実施することで、個人の課題とは別に、学年としての成果・課題を共有させ、具体的な改善点を示す。	A			
	最上級生として、学校や地域に貢献できる人材を育成する。	学校行事をはじめ学校生活全般において、下級生を牽引・支援できる能力や人間性を育成する。	A	B		
		校外活動（ボランティア活動、出前授業等）への積極的参加を促し、地域に貢献できる人材を育成する。	B			